



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN・SAITAMA

しらこばと

2020.3

No. 432

日本野鳥の会 埼玉

S H I R A K O B A T O



みんなの手で県内野鳥分布調査を（第3回）

日本野鳥の会埼玉 調査部

前回の調査（2005年5月～2010年1月）から10年経ちました。この間に都市部には中・高層マンションが数多く建ち、平地から丘陵部にかけての畑、空き地、湖沼等にはソーラーパネルが目立つようになりました。その他に圏央道のような新しい道路が開通するなど、自然や環境が大きく変わっています。

そこで、夏と冬に生息する野鳥の分布を調査し、変わりゆく埼玉の今を少しでも明らかにするのを目的として行います。

一人でも多くの方が、少しでも多くの場所を調査してくださると、たくさんのデータが集まり、より正確な調査となります。ぜひ、たくさんの会員のご協力をお願いします。

1. 調査期間

夏鳥は春の渡りがほぼ終わる5月11日から7月10日までの2か月間、冬鳥は秋の渡りがほぼ終わる12月1日から1月31日までの2か月間を、それぞれ調査期間とします。

前回までは5年間調査していましたが、今回は環境変化のスピード等も考え、2020年5月から2022年1月までの2年間（夏と冬、それぞれ2回）とします。

2. 調査方法

野鳥データベースをデータ分析に使いますので、従来と異なる報告方法になります。

今回は、調査期間の通算ではなく、調査場所ごとに1日単位で全出現鳥種の報告をお願いします。期間中に何度報告していただいても結構です。同じ場所の場合は、多くても上中下旬に各1回程度の頻度で十分でしょう。

3. 調査場所の報告方法

① 地名での報告

1つの調査範囲は数百m四方（最大1km四方）

としてください。その際、住所や具体的な目標物（〇〇小学校や〇〇公民館など地図で探せるもの）と調査場所の位置関係を詳しくお書きください。住所では「〇〇市大字〇〇」などとなることも多いと思いますが、大字の範囲がたいへん広くて、適当な目標物もないことがあると思います。そういう場合は「〇〇市大字〇〇の北東部」とか、より具体的な場所を記載していただくようお願いいたします。大字の範囲を知るには、図書館にある市販の地図やネット上のGoogleマップが使えます。

② 3次メッシュでの報告

前述のように、データ分析には野鳥データベースを利用します。データベースでは、観察場所を地名でなくJIS（日本工業規格）に規定された「3次メッシュ」という約1km²の区画に置き換えて記録しています（『しらこぼと』2017年9月号、<http://www.wbsj-saitama.org/kaihou/402.2017.09.pdf>を参照）。観察場所を3次メッシュでお知らせくださると大変ありがたいです。

③ 緯度・経度での報告

3次メッシュを調べるのは煩わしいと考えられる方も多いでしょう。その代わりに、スマホで緯度・経度を調べて報告する方法もあります。スマホでの調べ方は後述します。なるべく調査範囲の中心に近い地点で測定してください。

4. 報告の方法

① 会報に掲載した調査用紙で報告

P4の調査用紙をコピーしたものに記入して郵便かFAXで調査部あて送ってください（郵送料等のご負担をお願いします）。

② メールで報告

会のウェブサイトからダウンロードした調査報告様式ファイルに記入し、調査部（research@wbsj-saitama.org）に送ってください。

③ 野鳥リポーターの報告

野鳥リポーターは、いつものレポート用 Excel 様式ファイルに入力して、いつもどおりに報告してくだされば結構です。

【参考】スマホを使って緯度経度を知る方法

① iPhone

標準で便利ツールの中に「コンパス」というアプリが付いていて、それを使えば緯度経度(単位は度分秒)を知ることができます。「iPhone コンパス」でネット検索すれば詳しい設定・使用方法が解説されています。

② Android スマホ

本体及びカメラを設定し、調査場所で写真を撮影すれば、写真に位置情報が付加されて、撮影地点の緯度経度を知ることができます。なお、この設定で撮影した写真は、撮影場所を他の人に知らせたいときにも使えます。

以下の説明は、Android 9 (AQUOS)のもので、バージョンや機種によって違う場合があります。

・スマホ本体の設定

「歯車アイコン」(図1)をタップします。設定の画面が開くので、下側にスクロールして、「セキュリティと現在位置情報」(図2)をタップします。「セキュリティステータス」(図3)が開くので、再度下側にスクロールして、「プライバシー」(図4)の項目で「位置情報」がONかOFFか確認し、OFFであれば「位置情報」をタップし、「位置情報の使用」をONにします(図5)。

・カメラの設定

カメラを起動し、カメラの設定(図6)で「位置情報付加」をON(図7)にします。

・撮影地点の緯度経度を確認

現地で撮影した写真を表示して画面をタップすると図8のように画面上部に操作マークが表示されるので、それをタップして「プロパティ」を開く(図8)(図9)(図10)と、緯度と経度が分かります。桁数が多いので、少数点以下5桁に丸めて報告してください。例えば緯度なら「35.95694」、経度なら「139.66861」です。



図 1

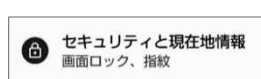


図 2



図 3

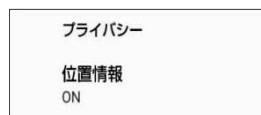


図 4

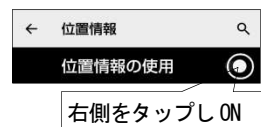


図 5

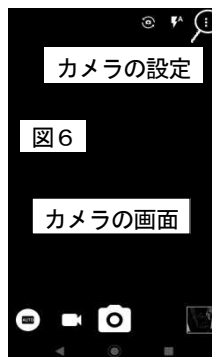


図 6



位置情報付加



図 8



図 9



図 10

野鳥分布調査 調査票

☐ 夏鳥(5/11～7/10)

☐ 冬鳥(12/1～1/31)

調査日		年		月		日		調査者					
調査場所	地名(目標物)								目標物からの方向		東 西 南 北		
	緯度・経度		北緯						東経				
	3次メッシュ								メモ				
番号	鳥種名						番号	鳥種名					
01							26						
02							27						
03							28						
04							29						
05							30						
06							31						
07							32						
08							33						
09							34						
10							35						
11							36						
12							37						
13							38						
14							39						
15							40						
16							41						
17							42						
18							43						
19							44						
20							45						
21							46						
22							47						
23							48						
24							49						
25							50						

★ 数百m四方（最大1km四方）を調査範囲として、1日分を1つの調査として報告してください。

●ハジロコチドリ？

当会の廣田純平幹事より、川越市の伊佐沼で2019年9月29日にハジロコチドリを観察したとの連絡があり、山崎耕さん（未入会の方）が翌30日に撮影した写真（上掲ほか2枚）も寄せられました。

一見して、黒い過眼線や胸帯が非常に太く、イカルチドリやコチドリとは異なることがわかります。また、冬羽に移行中の個体とするなら、夏羽の特徴である嘴基部の橙色が消失していることも説明が付き、この写真の鳥は確かにハジロコチドリ（学名 *Charadrius hiaticula*）のように見えます。

しかし、ここで問題となるのは近縁のミズカキチドリ（学名 *Charadrius semipalmatus*）との識別です。当委員会は検討の結果、今回寄せられた写真では、喉の白色部が口角の上にまで及んでいないかということや、趾の蹼（みずかき）の様子などが確認できないため、酷似するミズカキチドリの可能性を完全に排除することはできないと判断しました。

よって、寄せられた情報が「第三者が納得



する客観的資料となり得るか否か」を判断の基準としている当委員会の立場としては、このたびの写真を含む報告に対し、同定を保留することとします。

ハジロコチドリは、ユーラシア北部・グリーンランドで繁殖し、我が国には数少ない旅鳥または冬鳥として渡来します。当県内での目撃情報もありますが、当会の県内野鳥リストにはまだ掲載されていません。このたびの報告も参考記録として残すことにします。

一方、ミズカキチドリは北アメリカ北部で繁殖するチドリ類で、『日本鳥類目録改訂第7版』に拠れば、我が国では愛知県で記録があります。

6冊のフィールドガイド 榎本秀和(鴻巣市)

野鳥に関心を寄せる皆さんなら、故・高野伸二氏が著された『フィールドガイド日本の野鳥』（以下、『FG』と略記する）をご存じない方はいないだろう。我が国初めての本格的野鳥フィールドガイドとして1982年に「初版第1刷」が世に出て以来、敬愛され続けている名著である。

さて、今、私の手元には新旧6冊の『FG』がある。いちばん古いのは1986年発行の「初版第8刷」。この本、その頃の私にはちょっと懐にこたえる買い物で、思い切って購入したときには、既に「8刷」目になっていた。

『FG』には英文版もあって、1986年発行の「4th printing」も買った。英文版と言っても、日本語版の単純な英訳ではない。英語で新たに執筆されたもので、当会元支部長のM

氏が執筆陣のおひとりだったことは周知のとおり（本誌2020年1月号参照）。

『FG』の変わり種？と言えば、1989年に発行された「増補拡大版」だろう。普通の『FG』の2倍ほどのサイズで、家で勉強するときに使うような机上版だった。イラストの大きさも倍であり、見ていて迫力を覚える。

初版から四半世紀が経った2007年。この年に発行された「増補改訂版」は、初版発行以降に記録された野鳥が大幅に追加された心ときめくものだった。『FG』も、この版からソフトカバーの時代となる。

その後、『日本鳥類目録』改訂第7版に準拠した形で、「増補改訂新版第1刷」が発行されたのが2015年のこと。紙質の改良によってか、本の厚みも4分の3くらいになった。

そして、さらに若干の修正が加えられた2018年発行の「増補改訂新版第2刷」。これが現在の最新版ということになる。



野鳥情報

さいたま市岩槻区仲町2丁目 ◇8月31日午前7時55分、仲町郵便局の駐車場から東のアンテナでシラコバト1（大森茂男）。

伊奈町小室 N36.0082 E139.6301 ◇9月14日、ヨシゴイが綾瀬川の左岸の岸边にいた（下写真）。ここでのヨシゴイは初見。対岸からそっと観察した。9月18日、今朝も同じ場所にいた。どうやら幼鳥1羽と成鳥1羽もしくは2羽いるようだ（関口明宏）。



蓮田市笹山 ◇9月15日、田んぼの畔にタシギ、チュウジシギ各1（鈴木紀雄）。

さいたま市岩槻区 岩槻文化公園 ◇9月16日、若鳥を含むシジュウカラとメジロ、エナガの大きな混群の中に、シマエナガと言ってもよいほど眉斑がなく頭部の白い、通称「チバエナガ」が混じる。上空、ヒメアマツバメ1飛翔。ツツドリ若鳥が間近の木にとまった。9月21日、コゲラ、シジュウカラ、エナガの混群を見ていたらエナガが「ツリリリ…」の警戒音、ツツドリ若鳥が飛来。3m程先のブッシュの中をムシクイ類動く。恐らくメボソムシクイ。9月22日、カッコウの仲間1、コサメビタキ2、エゾビタキ1。9月28日、エゾビタキ3が高木上部を動き回る。カッコウの仲間が2羽飛翔。内1羽は成鳥（鈴木紀雄）。◇9月28日午前9時頃、ツツドリ若鳥1、クルマの木で毛虫を盛んに食べていた。キビタキ♂1、♀1、オオルリ♀1、エゾビタキ1。メジロの群れ、シジュウカラ。元荒川でカルガモ、コガモ、イソシギ1（藤原寛治）。

川越市 伊佐沼 ◇9月16日、コチドリ3、イカルチドリ2が干潟状の地面を歩き回って採餌。胸で横斑が途切れ、えりくびに白線があるように見えるコチドリ大のチドリ類。「えっ、こんな内陸でシロチドリ？」しっかり確認できないうちに見失う。メダイチドリかな〜？ コガモが来ていた（鈴木紀雄）。

さいたま市西区 大宮花の丘農林公園 ◇9月19日午前6時〜10時、カルガモ、キジバト、アオサギ、ダイサギ、ツツドリ、オオタカ、サシバ、カワセミ、コゲラ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、シジュウカラ、エナガ、ムクドリ、スズメ、ホオジロ（嶋田富夫）。

さいたま市緑区 大谷口公園(53396525) ◇9月19日、キセキレイ1、この場所では初確認（大井智弘）。

桶川市舎人新田調整池 ◇9月20日午前5時50分、コガモ19。第一陣到着（小貫正徳・とみ子）。

さいたま市岩槻区横根 ◇9月20日、ツバメ若鳥のみ約30の群れにショウドウツバメ約10も混じって飛び交う。上空遠方でチョウゲンボウにモビングする約10羽のツバメ類（鈴木紀雄）。

上尾市平方領々家 ◇9月22日午前10時頃、アオサギ成鳥1、幼鳥2、ゴイサギ成鳥1、幼鳥1。この辺で幼鳥は初確認、カワセミ2、ハクセキレイ成鳥1、幼鳥3、以前見かけたカルガモ9羽は皆無事に育っていた（村越百合子）。

さいたま市見沼区膝子 ◇9月27日、休耕田の草原にノビタキ3。10月1日、セイタカアワダチソウの生えた草原で3羽、1羽の顔は真黒（鈴木紀雄）。

北本市子供公園(北本自然観察公園隣) ◇9月29日早朝、秋の渡りのヒタキ類を探しに行ってみた。エゾビタキ、オオルリ若鳥♂（半分青い）など。園内のミズキに毎年ヒタキ類が訪れるが、開園前がオススメです（大畑祐二）。

草加市柿木町 ◇9月29日、田んぼでケリ1、クサシギ1、イソシギ1、タシギ3、ノビ

タキ4。10月6日、田んぼでハヤブサ成鳥1、ノビタキ2（鈴木 功）。

北本市 北本自然観察公園 ◇9月30日、エゾビタキが3～5、ミズキの実を採餌。3～5羽のヤマガラが、小枝で採餌。エナガとヤマガラとシジュウカラとメジロの混群が枝移り、コゲラも後からついて行った。他にカワセミ、カルガモ、コガモ、カイツブリ、カケス、ガビチョウ（長嶋宏之）。

蓮田市 西城沼公園 ◇10月4日、ハヤブサとオオタカ各1が南から同時に飛来し、西沼上空で旋回して高く上昇。その後、2羽とも西に流れた。10月17日、騒がしく鳴くヒヨドリの数が50±と急に増えた。第二陣が群れで渡ってきたのだろう（長嶋宏之）。

日高市 高麗川駅～巾着田～高麗神社 ◇10月4日、ハクセキレイ、セグロセキレイ、メジロ、ウグイス、モズ、シジュウカラ、スズメ、カワラヒワ、カケス、ガビチョウ。沢山の鳥の声に導かれ高麗神社の左側階段を上るとヤマガラ2を見ることができた。川付近ではアオサギ、ゴイサギ、ヤマセミの声を聞くことができた（村越百合子）。

草加市柿木町 そうか公園 ◇10月6日、メボソムシクイ1、ヒガラ1、マヒワ1、カケス1。10月14日、ツツドリ幼鳥1、アマツバメ1、ツミ♂若鳥1、カケス2、オオムシクイ1、キビタキ♂1、♀型4（鈴木功）。

蓮田市貝塚 山ノ神沼 ◇10月9日、コガモ9、カルガモ15、カイツブリ1、チュウサギ2（長嶋宏之）。

白岡市 白岡市総合運動公園 ◇10月9日、カイツブリ1、カルガモ29、コサギ6、ダイサギ1、アオサギ1、ゴイサギ1。10月16日、カイツブリ1、カルガモ4、ヒドリガモ♂18羽、♀13羽、コサギ2、ダイサギ1、コゲラ2、シジュウカラ2、モズ高鳴き。他にヒヨドリ多数、キジバト、ハクセキレイなど（長嶋宏之）。

白岡市小久喜 (54390523) ◇10月10日午後3時10分ごろ、JR 白岡駅西口にほど近い街角の電線にツミの♀が1羽とまっていた。

やがて東方に旋回しながら飛び去る（榎本秀和・みち子・岩崎瑞穂）。

越谷市 越谷レイクタウン ◇10月13日、コシジロウミツバメ3、ミサゴ1。台風19号通過後の早朝、大相模調整池の水面に浮かぶコシジロウミツバメを発見した。観察している間に3羽いる事に気が付く。そのうち1羽は上尾筒が真っ白でクロコシジロウミツバメと思ったが専門家に識別依頼したらコシジロウミツバメとの事だった。翌朝には抜けていた。コシジロウミツバメは越谷市初記録。10月20日、マミチャジナイ1（下写真）、ビオトープエリアの林で数分間観察した（鈴木 功）。



さいたま市見沼区膝子 ◇10月17日午前7時頃、上空でカラスが騒ぐので見ると、コミミズクがハシボソガラス1や小鳥にモビングされて飛翔していた。長い翼でゆったり羽ばたき、ハシボソガラスを余裕でかわしていたが、カラスのしつこさにビックリ。田んぼで採餌するハシボソガラス約50の群れ中にミヤマガラス1。午後4時頃、刈穂の間にタシギ2、飛翔するタシギ3。10月19日、畔でなぜか首をぐっと伸ばしたまま静止しているクイナ1。やがて尾をヒクヒクさせて刈取り前の稲の中へ（鈴木紀雄）。

さいたま市岩槻区高曽根 ◇10月21日、ケリ1がよく鳴いていた（鈴木紀雄）。

表紙の写真

スズメ目メジロ科メジロ属メジロ

2019年3月6日、彩湖・道満グリーンパークで撮影しました。

蟹瀬武男（さいたま市）



行事案内



ベニマシコ（編集部）

「要予約」と記載してあるもの以外、予約申し込みの必要はありません。集合時間に集合場所にお出かけください。初めての方は、青い腕章の担当者に「初めて参加します」と声をおかけください。参加者名簿に住所・氏名を記入、参加費を支払い、鳥のチェックリストを受け取ってください。鳥が見えたらリーダーたちが望遠鏡で見せてくれます。体調を整えてご参加ください。

参加費：中学生以下無料、会員 100 円、一般 200 円。

持ち物：健康保険証、筆記用具、雨具、飲み物。持っていれば、双眼鏡などの観察用具もご用意ください。なくても大丈夫です。

解散時刻：特に記載のない場合、正午から午後 1 時ごろ。

悪天候の場合は中止です。できるだけ電車バスなどの公共交通機関を使って、集合場所までお出かけください。間際に時刻表が変更される場合もあります。ご注意ください。

寄居町・玉淀河原探鳥会

期日：3月1日（日）

集合：午前 9 時 30 分、寄居駅南口駅前広場。

交通：秩父鉄道 熊谷 8:52 発、または東武東上線 川越 8:18 発→小川町乗り継ぎで寄居下車。

担当：茂木、井上、今村、堀口、松下

見どころ：春の風に乗って梅の香りが漂う中、荒川沿いを歩いているとあちこちから鳴き声が聞こえてきます。シメ、ベニマシコ、セキレイほか多数の小鳥たちがお待ちしています。

さいたま市・見沼自然公園探鳥会

期日：3月7日（土）

集合：午前 9 時、見沼自然公園駐車場南側のベンチ付近。

交通：JR 大宮駅東口⑦番バス乗り場 8:23 発「さいたま東営業所」行きで「締切橋」下車。バス停からご案内します。

担当：大井、浅見（徹）、市原、柏瀬、河邊、工藤、小林（み）、野口、山田

見どころ：「見沼たんぼクリーン大作戦」に参加。公園周辺で、身近な野鳥を観察しながらゴミ拾い。昨今プラスチックゴミによる野鳥への影響が懸念されています。これを機会にペットボトル飲料を止めて、マイボトルを携行しませんか。当日は、ゴミ拾いはさみ（あれば）をご持参ください。ゴミ袋と軍手は、こちらで用意します。

所沢市・狭山湖探鳥会

期日：3月7日（土）

集合：午前 9 時 30 分、西武狭山線 西武球場前駅前。

担当：石光、小林（ま）、佐藤（久）、島崎、鈴木（秀）、長谷部、水谷、村上（将）、持丸

見どころ：暖冬で鳥たちの衣替えも早まっているようです。カイツブリ類の鮮やかな夏羽が観られるでしょう。周囲の林のルリビタキにも期待しましょう。

千葉県銚子市・銚子漁港探鳥会 （要予約）

期日：3月7日（土）

詳細は 1 月号 4 ページをご覧ください。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：3月8日（日）

集合：午前 9 時 40 分、秩父鉄道 大麻生駅前。

交通：秩父鉄道 熊谷 9:21 発、または寄居 8:59 発に乗車。

担当：新井、大畑、倉崎、千島、飛田、中川、村上（政）、茂木

見どころ：レンジャク狙いで野鳥の森に行くか、ミヤマホオジロを探してゴルフ場裏を歩くか悩むところ。念入りに下見して決めますね。

蓮田市・黒浜沼探鳥会

期日：3月8日（日）

集合：午前9時、環境学習館前。

交通：JR 宇都宮線 蓮田駅東口から朝日バス
8:50 発 国立東埼玉病院行きで「新井団地」
下車。バス停からご案内します。

担当：千葉、石井(健)、内田、田中、長嶋、
菱沼(一)、菱沼(洋)、廣田

見どころ：春が近くまでできています。北国や
山地に向かう準備で忙しい鳥たちをじっ
くりと観察しましょう。綺麗なベニマシコ
も。

ご注意：車で来られる方は、出発地点の環境
学習館ではなく、北側にある“緑のトラスト
保全第 11 号地 黒浜沼駐車場”（環境学
習館まで徒歩 1 分）を利用してください。

さいたま市・大宮公園から市民の森 探鳥会

期日：3月8日(日)

集合：午前9時30分、東武野田線 大宮公園駅。
解散：午後3時～4時ころ、大宮市民の森※。

(※：JR宇都宮線 土呂駅まで徒歩約5分)。

担当：青木、浅見(徹)、小林(み)

見どころ：要弁当。大宮公園～大宮第二公園
～大宮第三公園～大宮市民の森と巡り歩
く盛りだくさんの探鳥会です。途中でお弁
当を食べてゆっくり鳥見をしたいと思い
ます。小鳥類、猛禽類、カモ類と大宮の鳥
達を探しましょう！ 坂道はありません
が、距離はあります。通常の徒歩の場合1
時間強かかります。途中、食事タイムがあ
ります。解散場所は、大宮市民の森とな
ります（最寄り駅は宇都宮線 土呂駅）。

東京都・八丈島航路探鳥会（要予約）

期日：3月13日(金)～14日(土)

詳細は2月号をご覧ください。

栃木県・日光東照宮裏山探鳥会

期日：3月14日(土)

集合：午前9時30分、東武日光駅前。※駅
から探鳥スタート。車の方も駅へ。

交通：春日部 7:36 発東武スカイツリーライン
区間急行→南栗橋着 07:53 で東武日光線急
行に乗り換え 08:00 発→東武日光 9:16 着。
解散：午後2時ころ、神橋付近で。

担当：浅見(徹)、植平、佐藤(宏)、佐野、渡
邊

見どころ：カワガラスやミソサザイを求めて、
大谷川～稲荷川に沿って歩きます。東照宮
裏の社寺林では、カラ類やアトリ科の小鳥
などに期待。全行程約8km、緩い上り下り
があります。足ごしらえはしっかりと。途
中、トイレがないのが難点です。昼食持参
(東武日光駅の売店でも購入できます)。

さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：3月15日(日)

集合：午前9時、さいたま市立浦和博物館前。

交通：JR 北浦和駅東口、正面信号を左側から
渡り、50m先左手バスターミナルから東武
バス「さいたま市立病院行き」8:23 発で終
点下車。

後援：さいたま市立浦和博物館

担当：浅見(徹)、青木、浅見(健)、楠見、小
菅、小林(み)、須崎、畠山

見どころ：天気が良ければ、ホオジロとヒバ
リが賑やかに囀っているでしょう。猛禽類
が現れると、静かになることも。派手に化
粧した雄のキジにも会えるかも。

羽生市・羽生水郷公園探鳥会

期日：3月18日(水) 平日

集合：午前9時、羽生水郷公園北駐車場。

交通：羽生市福祉バスの手子林・三田ヶ谷ル
ート（ムジナもん号）を利用。東武伊勢崎
線 羽生駅東口 8:04 発→南羽生駅 8:21 発
→「キャッセ羽生・水郷公園」下車、県道
を渡り公園へ。

共催：羽生水郷公園管理事務所

担当：相原(修)、相原(友)、新井、植平、飛
田、中川、茂木

見どころ：オオジュリンやベニマシコ、ヨシ
ガモなどの冬鳥に別れを告げます。池のア
オサギは巣作りの準備で忙しそうです。

注意：帰りのバスは14:50 発です。

埼玉 Young 探鳥会 東京都・八丈島航路海鳥観察会 (要予約)

期日：3月19日(木)～20日(金)

詳細は2月号または当会HPをご覧ください。

松伏町・松伏記念公園探鳥会

期日：3月20日（金・祝）

集合：午前9時30分、松伏記念公園北口駐車場。
交通：東武伊勢崎線 北越谷駅東口①番バス乗り場から茨急バス・エローラ行き 9:00 発で「松伏高校前」下車。または武蔵野線 吉川駅北口③番バス乗り場から茨急バス・エローラ行き 8:40 発で「松伏高校前」下車。
松伏高校の向かい側が集合場所です。

共催：松伏町中央公民館

担当：山部、石川(光)、植平、佐藤(宏)、佐野、進士、橋口

見どころ：公園と田起こし中の田んぼを歩き、繁殖に備えての冬鳥たちや身近な留鳥たちの変化を見つけます。

秩父市・秩父ミュージズパーク探鳥会

期日：3月21日（土）

集合：午前9時10分、西武秩父駅前。集合後、ミュージズパーク循環バス 9:26 発で「音楽寺」下車。または午前9時40分、ミュージズパーク内の百花園駐車場。

交通：秩父鉄道 熊谷 7:39 発→御花畑 8:51 着→〈徒歩約8分〉→西武秩父 9:00 着。または所沢 7:30 発（西武池袋線快速急行）→西武秩父 8:47 着。

解散：昼食後、午後1時半ごろに現地で。西武秩父駅行きのバスは 14:27 発（秩父駅 14:33 着、西武秩父駅 14:45 着）。

担当：長野、青木、井上、佐野

見どころ：当会では唯一の秩父市内での探鳥会です（予約は除く）。カラ類やキツツキ類を中心に観察します。ウソやマヒワにも期待しましょう。ルートは若干のアップダウンがあります。

ご注意：弁当を事前に用意・持参してください。園内に売店はありません。

『しらこぼと』袋づめの会

とき：3月21日（土）午後3時～4時ころ
会場：会事務局 108 号室

狭山市・入間川定例探鳥会

期日：3月22日（日）

集合：午前9時、西武新宿線 狭山市駅西口。
交通：西武新宿線 本川越 8:43 発、所沢 8:38 発に乗車。

解散：正午ころ、稲荷山公園。

担当：長谷部、石光、佐藤(久)、島崎、鈴木(秀)、中村(祐)、藤掛、星、水谷、山口、山本(真)
見どころ：入間川の河原と稲荷山公園を歩き、ツバメやコチドリ、春の草花を探します。ヤマガラやシジユウカラの囀りも聞こえてきそうです。

加須市・渡良瀬遊水地探鳥会

期日：3月29日（日）

集合：午前8時10分、東武日光線 柳生駅前。
または午前8時30分、中央エントランス駐車場。

交通：東武線 新越谷 7:19→春日部 7:36→南栗橋で新栃木行き 7:54 発に乗り換え柳生 8:07 着。または JR 宇都宮線 大宮 7:03→栗橋 7:38 着、東武線 新栃木行き 7:57 発に乗り換え柳生 8:07 着。

解散：正午ころ、谷中村史跡ゾーン。

担当：佐野、入山、植平、佐藤(宏)、進士、野口、山本(巧)

見どころ：ヨシ焼が終わった遊水地は春めいてきているはず。水の引いた谷中湖周辺で、北へ旅立つ前の冬鳥たちを探します。

埼玉 Young 探鳥会 室内講座「羽を知る会」 (要予約)

期日：4月11日（土）

集合：午後1時15分、埼玉自然学習センター
申込み：当会HP応募専用フォームから（3月中旬ごろ掲載予定）。

定員：30名（応募多数の場合は抽選）

担当：廣田

見どころ：当会リーダーを講師に、昨年夏に開催し大好評だった「室内講座 鳥の羽」を Young 探鳥会でも開催します。鳥の一番の特徴である羽について深く知ることができるチャンスです。



行事報告

11月3日(日) 松伏町 まつぶし緑の丘公園

参加: 48(会員43)名 天気: 晴

ヒドリガモ マガモ カルガモ ハシビロガモ
コガモ カイツブリ キジバト カワウ ゴイサ
ギ アオサギ ダイサギ バン オオバン イカ
ルチドリ イソシギ オオタカ カワセミ コゲ
ラ モズ オナガ ハシボソガラス ハシブトガ
ラス シジュウカラ ヒバリ ヒヨドリ ウグイ
ス メジロ ムクドリ ジョウビタキ ノビタキ
スズメ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバ
リ カワラヒワ シメ ホオジロ アオジ (38種)
(番外: ドバト) 暖冬といわれているが、池に
はカモ5種が入っていた。冬の小鳥も順調に飛来
しているが、ツグミの姿が見られなかったのが寂
しかった。(橋口長和)

11月16日(土) さいたま市 見沼自然公園

参加: 42(会員34)名 天気: 晴

コジュケイ キジ オカヨシガモ ヒドリガモ
カルガモ オナガガモ トモエガモ コガモ ホ
シハジロ カイツブリ キジバト カワウ アオ
サギ ダイサギ バン オオバン ハイタカ オ
オタカ カワセミ コゲラ モズ ハシボソガラ
ス ハシブトガラス シジュウカラ ヒヨドリ
ウグイス エナガ メジロ ツグミ スズメ ハ
クセキレイ セグロセキレイ カワラヒワ アオ
ジ (34種) (番外: ドバト) 出発後、野鳥が少な
かったが、オオタカが見つかるとうれしさが一挙に
高まり、上空のハイタカにカラスがモビングする
のを全員で観察。また、コジュケイの群れが参加
者を笑顔にした。公園内の池にはカモ類が勢揃い
し、珍しくホシハジロを確認した。トモエガモの
雄が生殖羽へ変身しつつあった。(大井智弘)

11月16日(土) 春日部市 内牧公園

参加: 43(会員39)名 天気: 快晴

コジュケイ マガモ キジバト カワセミ コゲ
ラ モズ カケス ハシボソガラス ハシブトガ
ラス シジュウカラ ヒヨドリ ウグイス エナ

ガ メジロ ムクドリ ツグミ ジョウビタキ
スズメ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキ
レイ カワラヒワ ホオジロ (23種+タカ科不明
種1) (番外: ドバト) ヒヨドリ、メジロ、ツグ
ミが柿の実を啄ばみ、あちこちでセグロセキレイ
の姿を目にし、シジュウカラ・メジロ・コゲラの
混群に遭遇して、冬鳥の季節到来を実感した。他
方、シロハラやアカハラは出ず、他の小鳥類も影
が薄かった。(石川敏男)

11月16日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア: 11名

宇野澤晃、榎本秀和、海老原教子、海老原美夫、
小林みどり、佐久間博文、志村佐治、松村禎夫、
三ツ矢正安、吉原早苗、吉原俊雄

11月17日(日) 嵐山町 菅谷館都幾川

参加: 34(会員31)名 天気: 晴

キジバト イカルチドリ クサシギ イソシギ
カワセミ コゲラ チョウゲンボウ モズ ハシ
ボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒ
バリ ヒヨドリ ウグイス メジロ ムクドリ
ツグミ ジョウビタキ スズメ キセキレイ ハ
クセキレイ セグロセキレイ カワラヒワ ベニ
マシコ シメ イカル ホオジロ アオジ (28種)
(番外: ドバト、ガビチョウ) 出発直後のイカ
ルは声のみ。その後も鳥はあまり出ないまま林を
通過。川辺に出るとセキレイ3種、クサシギ、イ
カルチドリ、イソシギ、カワセミと都幾川らしい
鳥が見られ、ホッとした。(新井 巖)

11月17日(日) さいたま市 三室地区

参加: 49(会員31)名 天気: 晴

ヒドリガモ マガモ カルガモ コガモ カイツ
ブリ キジバト カワウ ゴイサギ アオサギ
ダイサギ コサギ バン オオバン オオタカ
カワセミ チョウゲンボウ モズ ハシボソガラ
ス ハシブトガラス シジュウカラ ヒバリ ヒ
ヨドリ ムクドリ ツグミ ジョウビタキ スズ
メ ハクセキレイ カワラヒワ ホオジロ アオ
ジ (30種) (番外: ドバト) 昨今11月は冬ではな
く、秋の始まりとの感じを受ける。しかし、鳥は
完全に冬の装い。基本の鳥達が勢ぞろいし、猛禽
代表のオオタカ、チョウゲンボウもじっくり観察。
カワセミは声だけの人もいて残念。(青木正俊)



連絡帳

●台風 19 号の被害復旧作業続く



昨年 10 月 12 日に襲来した台風 19 号による被害からの復旧作業が続いています。

上写真は、翌 13 日に当会会員が上流左岸の土手上から幸魂大橋方面の彩湖・道満グリーンパークを撮影したものです。これだけの水量による冠水ですから復旧は容易ではなく、1 月末現在、グリーンパークや秋ヶ瀬公園のテニスコートなどごく一部が再開されただけで、立ち入り禁止は続き、探鳥会は当分開催できません。

●会員の普及活動

1 月 14 日(火)、小林みどり副代表が、上尾市自然学習館の自然学習指導員に、上尾丸山公園で野外実習(探鳥)と室内講習(鳥のいる場所の説明を工夫しよう)の研修を実施しました。12 月 10 日(火)に続く研修でした。

●ごめんなさいコーナー

前月号 12 ページ本欄、「2 月の予定」の中で「2 月 8 日(土) 普及部会(午後 2 時から)」とあるのは、「2 月 1 日(土) 普及部会(午後 4 時から)」の誤りでした。

●会員数は

2 月 3 日現在 1,555 人です。

活動と予定

●1 月の活動

1 月 11 日(土) 午後 2 時から会事務局 108 号室で普及部会。出席者 6 名。

同日 午後 4 時から同所で 2 月号校正作業(海老原美夫、佐久間博文、志村佐治、長嶋宏之)。

1 月 17 日(金) 2 月号を pdf 化し、本部総務室に送信、全国支部等への配布を依頼した(海老原美夫)。

1 月 18 日(土) 埼玉会報のみの会員向け袋詰め作業。

1 月 19 日(日) 午後 4 時から役員会(司会: 山部直喜、出席者 16 名。行事予定の変更など)。

1 月 20 日(月) 『野鳥』誌と同封発送しない会員向け『しらこぼと』2 月号を郵便局から発送(海老原美夫、山部直喜)。

●3 月の予定

3 月 7 日(土) 普及部会と編集部会(午後 4 時から)。

3 月 14 日(土) 4 月号校正(午後 4 時から)。

3 月 15 日(日) 役員会(午後 4 時から)。

3 月 21 日(土) 袋づめの会(午後 3 時から)。

編集後記

近くの公園にオジロビタキが来た。聞きなれない地鳴きを繰り返し、枝から枝、枝から地面へと忙しく動き回る愛くるしい姿を堪能した。地鳴きの声、下嘴の色などから、ニシオジロビタキのようだ。本誌 2011. 06、No.326 にオジロビタキについての考察が載っている。当会 HP からご一読を。(T. A.)

しらこぼと 2020 年3月号(第 432 号) 定価 200 円(会員の購読料は会費に含まれます)

発行人 日本野鳥の会埼玉代表 山部直喜 (〒330-0064 さいたま市浦和区岸町4丁目 26

番 8 号 プリムローズ岸町 107 号) TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460

郵便振替 00190-3-121130 URL <http://www.wbsj-saitama.org> 事務局 office@wbsj-saitama.org

編集部への原稿 yamabezuku@wbsj-saitama.org 編集部への野鳥情報 toridayori@wbsj-saitama.org

住所変更などの連絡は gyomu@wbsj.org または TEL03-5436-2630 FAX03-5436-2635

〒141-0031 品川区西五反田3丁目9番 23 号 丸和ビル (公財)日本野鳥の会会員室へ

本誌掲載記事はホームページに転載される事があります。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。

印刷 関東図書株式会社